

## 道徳の授業の流れと留意点

道徳科の授業の流れには、特に決められた形式はないですが、一般的には以下のように、「導入」、「展開」、「終末」の各段階を設定して授業を進めることが広く行われています。

### 導入

- ・本時の主題（ねらい）に迫る日常の出来事を取り上げる。
- ・教材の内容に興味や関心、問題意識をもたせる工夫をする。
- ・何について考えればよいかという視点を与える。（道徳的価値への方向づけ）

例えば、友人に誘われるがままに悪いこと（万引き）をしてしまった主人公が、正直に言おうか黙っていようか、友人との関係をどうしようかと悩んでいる場合を取り上げたとしましょう。

この場合の主題（ねらい）は「正直、誠実」、「強い意志（弱さの克服）」になるかと思います。そうすると、導入では、「皆さんは、今までに、悪いことをして、黙っていたことはありませんか？正直に言おうかどうか、悩んだことはありませんか？」などと問いかけ、「ここでは、そんな悩んでいる主人公のお話です。」と行って展開に入る。ここで問いかけを深入りして、子ども達から懺悔の話を引き出してしまうと、重苦しくなり、そのあとだれも発言しなくなるので、主題（正直、誠実）は何かというのを明らかにする程度で、さらっと流していくのが良いと思います。

### 展開

#### （１）教師による読み聞かせ（範読）

- ・子ども達にわかるように、ゆっくりと読む、強調して読むなどすると理解しやすくなる。
- ・一気に読む方法と、二度に分けて読む方法がある。（場面を焦点化する）
- ・児童生徒に読ませる方法もあるが、読み手が代わると思考が散漫になる。

教師の範読の時は、じっとして読むのが良い、子ども達の回りを動き回りながら読むと、気が散って集中できない。物語の本文を途中で切って、次にどうなるのか予想させる方法もあるが、その場合、主題に迫る重要な場面で切ることと、なぜそう予想したのかを発表させ、深めていく必要があります。

#### （２）教材を提示する工夫

- ・紙芝居の形で提示したり、人形や絵（ペープサート）や心情図などにより、登場人物の心情を表現するのもよい。
- ・音声や音楽の効果を生かしたり、ビデオなどの映像も効果が高められる。

### (3) 登場人物の心情について発問

- ・主発問は3つ以内。
- ・主題（ねらい）に迫るものを選ぶ。
- ・主人公の心情、判断、考え方などについての意見、問題点などを問う発問をする。
- ・あらすじを細かく追うような発問は避ける。  
（とかく状況を確認しようとして、子ども達の答えを待っていると、時間がかかってしまうので、教師が概略を解説するとよい）
- ・「あなたはどう思いますか。」という発問はしない。（これは後半にとっておく）あくまで登場人物になりきって、主人公の心情（葛藤）について思いを語らせる。

あなたはどう思いますかと発問すると、自分の気持ちを言いたくない子どもは、黙ってしまうので、「主人公はどう思っていたと思いますか。」と発問すれば、主人公の名を借りて自分の意見を乗せることができるのです。

- ・子ども達の思考を予想し、それに沿った発問や自由な思考を促す発問、物事を多面的、多角的に考えたりする発問などを心がける。

主人公の揺れ動く心情がポイントであると思うので、「黙っていればばれない」や「後ろめたさがある」、「二度とその店には行けない」、「正直に謝った方が楽になる」、「次に友人に誘われたらどうしよう」などの悩む心情が多面的に出るような発問を考えると良い。

- ・すぐに発表が出ないときは、ノートに書く活動や、グループでの話合いを取り入れてから発表させるのもよい。
- ・このときに机間指導をしながら、書いている内容を素早く見て指名計画を立てる。
- ・主人公以外の登場人物の心情についても発問し、多様な考えを引き出すとよい。

子ども達の考えが一方に偏ってしまった場合には、主人公以外の他の人たちはどう思っているのだろうか等の発問をすることで、主人公を心配そうに見守る母親の「家族愛」や、店のおばあちゃんの「誠実に勤労する姿」、友人などの「規範意識のなさ」等を引き出すこともできるが、深入りすると本時の主題と離れてしまうので、いろいろな考えがあるという程度にとどめておくのがよい。

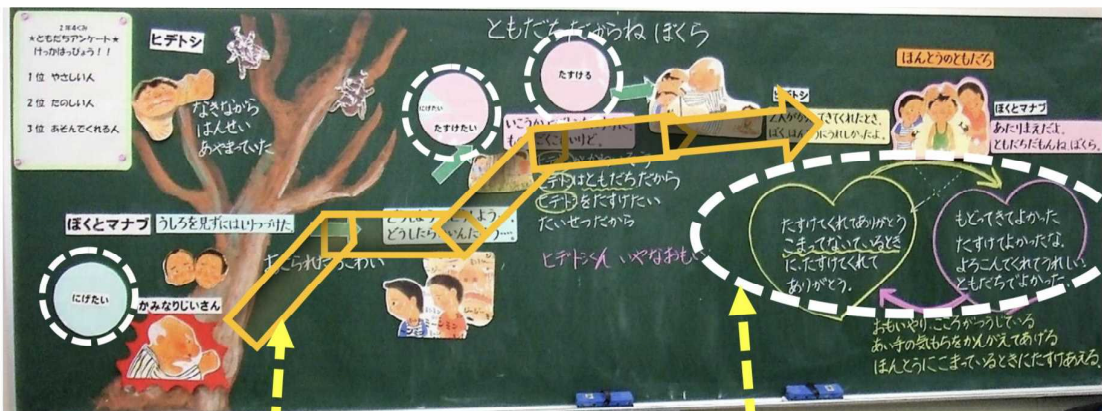
### (4) 話合いの工夫

- ・効果的に話合いが行われるよう、座席の配置を工夫したり、ペアでの対話やグループによる話合いを取り入れたりするなどの工夫をする。
- ・話合いにより、多様な価値観を引き出し、比較するなどして、自分の考えがどれに近いかを確かめる。
- ・話合いで一つにまとめることはしない。あくまで個人の考えを明確にさせる。  
（グループでまとめると少数意見や貴重な意見が埋もれる恐れがある）

### (5) 板書を生かす工夫

- ・思考の流れや順序を示すような流れだけでなく、絵や、心情曲線を使って対比的、構造的に示したり、チョークの色を使い分け、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をする。
- ・教師が子ども達の考えを取り入れ、子ども達と共に作っていくような創造的な板書となるように心掛ける。(子ども達が使った言葉を整理して使うとよい)
- ・縦書きなのか横書きなのかは、どちらでも構いません。使う資料と、板書の配置をイメージして、効果的な方法で、また縦、横混在しても構わないと思います。

#### ○ 心情曲線、心情円盤、図式化を用いた例



心情曲線を用いて、登場人物の心情の変化を可視化することで、変容の様子をとらえさせる。

事象、心情、考え方など、矢印や記号を使って、一目で関係がとらえられるように整理し、思い合っている様子が視覚的にわかるようにする。

(出；広島県 御幸小2年)

### (6) この資料から何を感じたか、発表させる

- ・「この話を読んで、あなたならどうしますか？」と初めてここで主人公から離れ、自分の考えを語らせる。
- ・いろいろな価値観があっても構わない。受容する。  
(仮に望ましくない意見が出て受容していく。)
- ・価値観を一つに誘導する展開にはしない。(あくまでも子どもが主役なので。)
- ・自分が今後同様の場面に出会ったときにどうするか、望ましい行動がとれるための伏線 (歯止め) となれば良い。

望ましい行動とは、誰かに相談する、次の誘いを断る、友人に「もう止めよう。」と言う、等が考えられる。

(7) 資料を離れ、今までの自分や考え方を見つめる段階。(これを価値の一般化という)

- ・価値の自覚を深める中心的な段階で、道徳の授業の最も重要な部分である。
- ・ねらいとする価値に関わって、自分を振り返ってみる。
  - 直接経験を問う (～したことがあるか、～について考えたことがあるか)
  - 間接経験を問う (～を見たことがあるか、～を聞いたことがあるか)
- ・そのときの気持ちや考えを問う。
- ・今、そのことをどう思うかを問う。
- ・自己を見つめるということは、決意表明や懺悔とは異なる。

ここで、導入で投げかけた言葉を再び用い、「皆さんは、今までに、悪いことをして、悩んだことはありませんか？誰かが悪いことをしていても注意できなかったことはありませんか？そういう話を聞いたことはありませんか？正直に言ったおかげで、気が晴れたことはありませんか？」などと問いかけ、子ども達のこれまでの経験から、何を学んだのか、今後どうしていきたいのかなどを引き出し、いけるのをねらっているが、今回の資料のような重いテーマの場合、子ども達の発達段階を考えると、経験の少ない小学生の場合は、発表は望めないと思われます。中学生段階以上であれば、「あの時こんなことがあったけれども、今思うと、こう思います。」などが出来るかもしれませんが、懺悔の告白にもなるので、教師が問いかけてはみるものの、子ども達の反応次第では、ここは省略もあり得ます。

## 終末

(8) 追求した価値に対する思いや課題をまとめ、これからへの意欲づけを図る

- ・説話、写真、スライド、音楽、静かに目を閉じて黙考、道徳ノートへの書き込みなどの方法がある。
- ・教師の思いを語ることは、児童生徒の心情に訴え、深い感銘を与えると同時に、信頼関係を増すことができ、大変有効である。
- ・余韻を持って終わることも大切である。
- ・決意表明や行為の強制には十分注意する。
- ・学級活動のように即実践を求めるものではない。
- ・資料を通じて疑似体験することで、授業前の自分よりも授業後の自分に変容があることがねらいである。

終末では、感動的な結末の話があると子ども達は安心するが、「今でも思い出すたびに後ろめたい気持ちになる。」という話でも、充分心に染みるものだと思います。

- 道徳は、本来、楽しいものです。自由に意見を言えて、誰にもとがめられない、正解はない、いろいろな考え方があっていい、他を受容する時間です。だから、普段発表できない子どもでも生き生きと発表できる雰囲気にしていく必要があります。

とかく教師は、その時間内で結論を出し、完結させようとしがちですが、道徳は違います。今答えを出さなくてもいいのです。大事なものは、これからどう生きようとするのか、希望を持たせる時間であると私は思うのです。

## 道徳教育の4つの視点

道徳科の指導内容では、4つの視点(A～D)とそれに合わせた内容項目(22項目)にまとめられています。

平成30年度から始まった「特別の教科 道徳」(以下「道徳科」という)の指導内容は、それまでの4つの視点の順序や、内容項目の見直しが行われ、いじめの問題への対応の視点から、小学校においては、「個性の伸長」、「相互理解、寛容」、「公正、公平、社会正義」、「国際理解、国際親善」、「よりよく生きる喜び」が追加され、中学校においても、「異性の理解」が「相互理解」になるなど、性差による表現にも配慮した内容となっています。

### A 主として自分自身に関すること

は追加された内容項目

(小学校)

(中学校)

- 1 善悪の判断, 自律, 自由と責任
- 2 正直, 誠実
- 3 節度, 節制
- 4 個性の伸長
- 5 希望と勇気, 努力と強い意志
- 6 真理の探究

- 1 自主, 自律, 自由と責任
- 2 節度, 節制
- 3 向上心, 個性の伸長
- 4 希望と勇気, 克己と強い意志
- 5 真理の探究, 創造

### B 主として人との関わりに関すること

- 7 親切, 思いやり
- 8 感謝
- 9 礼儀
- 10 友情, 信頼
- 11 相互理解, 寛容

- 6 思いやり, 感謝
- 7 礼儀
- 8 友情, 信頼
- 9 相互理解, 寛容

## C 主として集団や社会との関わりに関すること

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 12 規則の尊重               | 10 遵法精神，公德心                |
| 13 <u>公正，公平，社会正義</u>   | 11 公正，公平，社会正義              |
| 14 勤労，公共の精神            | 12 社会参画，公共の精神              |
|                        | 13 勤労                      |
| 15 家族愛，家庭生活の充実         | 14 家族愛，家庭生活の充実             |
| 16 よりよい学校生活，集団生活の充実    | 15 <u>よりよい学校生活，集団生活の充実</u> |
| 17 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度 | 16 郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度    |
|                        | 17 我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度    |
| 18 <u>国際理解，国際親善</u>    | 18 国際理解，国際貢献               |

## D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 19 生命の尊さ            | 19 生命の尊さ           |
| 20 自然愛護             | 20 自然愛護            |
| 21 感動，畏敬の念          | 21 <u>感動</u> ，畏敬の念 |
| 22 <u>よりよく生きる喜び</u> | 22 よりよく生きる喜び       |

## 道徳科の評価

- (1) 数値による評価ではなく、記述式であること。
- (2) 他の児童生徒との相対評価ではなく、個々の児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと。
- (3) 他の児童生徒と比較して優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要があること。(到達目標があるわけではない)
- (4) 個々の内容項目ごとではなく、<sup>おおくく</sup>大括りなまとまりを踏まえた評価を行うこと。  
(1 単位時間の授業だけでなく、学期ごと等の長い期間を経て、道徳的価値の理解が深まったりしていることを見取り、評価していく)